

病害虫発生予察情報  
特殊報

昭和58年6月16日  
東京都農業試験場

イネの新害虫イネミズゾウムシの発生について

発生地域

6月16日現在、棲息が確認された地域は下記のとおりである。

町田市相原，小山田，図師，山崎，小野路町，稲城市，坂浜町，八王子市寺田，遣水，加住，犬目，高月，叶谷町

日野市石田町

秋川市草花，小川

昭島市拝島町

足立区入谷町

発生状況

本種はアメリカ原産のイネの害虫として知られ，昭和51年愛知県に発生して以来，またたく間に隣接府県に侵入し，被害を与えた。現在，東北地方にまで侵入していることが明らかになっている。東京都ではこれまで発生が認められなかったが，昨年神奈川，埼玉両県の隣接地帯の水田で発見され侵入が警戒されていた。

本種は，越冬場所の山間地から水田に飛来したと考えられ，田植の早かった本田，苗代のとり残し苗を食害している。今後，田植後の日数が経過するにしたがって本田の被害は増加するものと考えられる。

虫の特徴

成虫の体長は3mm内外，背面に黒色の大きな模様がある。雄は発見されず，雌だけで繁殖する。山間地で越冬し，水田に飛来して，イネの葉を食べ，茎に卵を産みつける。かえった幼虫は白いウジ状で，背中の突起をイネの根にさし込んで呼吸し，根をかじって大きくなる。8月頃，成虫となって山に移動する。

対策

本種の被害は幼虫による根の食害が最も大きい。したがって成虫の産卵防止と幼虫の防除を徹底する。そのため，成虫の棲息が確認されたところではバイジット，スミバッサ，カルホス粉剤を10アール当たり3～4kg，ウンカ，ヨコバイの防除をかねて散布する。また田植後10～15日後にサンサイド，バッサジェット，バイジットの各粒剤を10アール当たり4kgの割合で散布する。